

ニュースクリップ & 映像教材

- 「学校における著作権教育アンケート調査」報告書完成
- 松下教育研究財団「第31回(平成17年度)実践研究助成」ならびに「第12回(平成17年度)研究開発助成」募集開始
- 「第3回全国子ども科学映像祭」表彰式及び上映会開催
- 子どものための最新ワークショップの博覧会！「ワークショップコレクション2005」開催
- 「教育におけるメディア活用と著作権について」公開講演会開催
- 「平成16年度 第51回東京都小学校視聴覚教育研究大会」開催

文部科学省情報

■「学校における著作権教育アンケート調査」報告書完成

学校現場における著作権教育全般に対する認識、指導・運営面での実態などを把握し、今後の著作権思想の普及啓発活動に反映させることを目的に、標記調査が実施され、このほど報告書が完成した。

〈調査内容〉

「教員の意識」「教育指導」「学校運営」「教員研修」「文化庁の情報」の5つのカテゴリーに分類して調査を実施した。

〈調査対象〉

無作為抽出による、全国国立・公立・私立の小・中・高等学校・特殊教育諸学校約4,000校

〈調査期間〉

平成16年6月20日～7月30日

〈調査結果〉

調査を担当した(社)日本教育

工学振興会のホームページにて公開中。<http://www.japet.or.jp/index.cfm/4,1013,58,html>

AV情報

■松下教育研究財団「第31回(平成17年度)実践研究助成」ならびに「第12回(平成17年度)研究開発助成」募集開始

(財)松下教育研究財団では、さまざまな視聴覚・情報通信メディアを効果的に活用し、教育課題の改善に取り組む実践的な研究を行う団体に対して実践研究助成の募集を行う。

また、視聴覚教育振興の一層の促進を期待し、「視聴覚メディアを活用してより豊かな人間性を育成する」研究や「新しいメディア活用の方向性を示唆する」研究等、独創的な研究開発活動への支援を行うべく研究開発助成の募集も行う。

『第31回(平成17年度)実践研究

助成』

○助成金額・件数

助成金40万円×60件

○応募締め切り

平成17年1月31日(月)

『第12回(平成17年度)研究開発助成』

○特定課題

下記特定課題のいずれかのテーマに沿って研究に取り組むこと。

①「豊かな心の育成のために、情報通信機器やネットワークを有効に活かす実践的な研究」

②「大学・教育センター(カリキュラム開発・教育支援・研修など)におけるWebの活用研究」

③「コミュニケーション能力を育てる大学等高等教育機関間ネットワーク・e-Learningの活用研究」

○助成金額・件数

1件あたり100万円×15件

○応募締め切り

平成17年1月31日(月)

*上記2助成の応募資格・応募

ブックレビュー



「授業の基礎としての インストラクショナル デザイン」

赤塚侃司著 (財)日本視聴覚教育協会
2004年12月刊 A5判 256頁
1470円

本コーナーで著者の書評をさせていただくのは、これが2度目である。ちょうど1年前「解決思考で学校が変わる—確かな学力の基礎にあるもの—」という書を紹介させていただいた。著者の教育観や教育哲学を知る上で参考になる。

今回の書には、それに基づく具体的な授業設計論が展開されている。巻頭に記されたとおり、本書は大学や大学院のテキストを想定して、授業デザインの基礎的な内容について述べたものである。なぜインストラクショナルデザインなのかという問いに対する答えは、前書を読むことによって明らかになる。ぜひ併読をお勧めする。

第七章「eラーニングへの展開」では、インストラクショナルデザインがeラーニングの教

育設計手法としてなぜ注目されるのか、その理由がわかりやすく述べられている。本書のいわば目玉とも呼ぶべき章である。

ニーズ分析、目標設定、システム設計、授業の展開、教授方略、そしてeラーニングと論が展開されていくのだが、となれば評価論についても触れてほしかった。さらには、インストラクショナルデザインの良し悪しをどのように考えるのかも知りたいところである。この点については著者の次書が待たれる。

なお、本書は日本視聴覚教育協会が視聴覚教育選書として出版したものである。関係者が長いこと待ち望んでいたシリーズであり、本書を皮切りに視聴覚教育に関わる良書が、復刻版等も含め、今後続々と出版されることを期待する。(多田元樹)

要項・申請書の請求等については、下記の問い合わせ先まで。

〈問い合わせ先〉

(財) 松下教育研究財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門
1-14-1 郵政互助会琴平ビル5F

TEL 03-5521-6100

<http://www.mef.or.jp/>

■「第3回全国子ども科学映像祭」表彰式及び上映会開催

(財)日本科学映像協会、(独)科学技術振興機構、(財)ニューテクノロジー振興財団の主催による標記映像祭の参加作品の中から、文部科学大臣賞、優秀作品賞等がこのほど決定し、下記により、表彰式および受賞作品の上映会が開催される。

〈開催日時〉

平成17年1月9日(日) 10:00

〈会場〉

日本科学未来館みらいCANホール他(東京都江東区青海2-41)

〈問い合わせ先〉

(財) 日本科学映像協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-3 第12森ビル8F

TEL 03-3504-1625

FAX 03-3504-1626

<http://kaeikyo.net/>

■子どものための最新ワークショップの博覧会! 「ワークショップコレクション2005」開催

いろいろなモノ作りを通して子どもたちの創造力を育てることや、さまざまな分野からの専門家の参加と交流の機会を創出し、ワークショップに関わる人々、関心を持つ人々の連携の輪を広げることを目的に、特定非営利活動法人CANVASの主催による標記ワークショップが開催される。

〈開催日時〉

平成17年1月22日(土)

13:00~17:00

平成17年1月23日(日)

11:00~17:00

両日ともに最終入場は16:00

〈会場〉

日本科学未来館(東京都江東区青海2-41)

〈各種ワークショップ〉

「ZOZOキッズCG『ウォ!へんし〜ん』」

自分をデジカメで撮影して、2次元そして3次元CGの不思議な世界を体験する。

「『逆転時間』を楽しもう!」

小型ムービーカメラとパソコンを使ってアイデアと工夫による「逆転時間」を作りだす。

「つなぐ・つながる・みんなで話せる糸でんわ 自分が声になっちゃう等身大糸でんわ」

紙コップと糸というシンプルな素材を使ってつながる楽しさを体験する。他

〈参加費〉

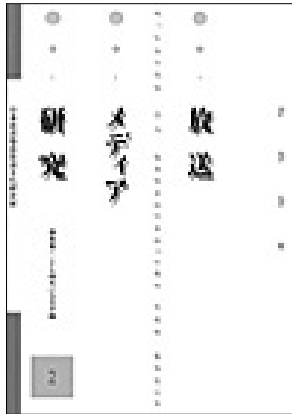
無料

〈問い合わせ先〉

CANVAS事務局

〒105-0012 東京都港区芝大

ブックレビュー



「放送メディア研究」

日本放送協会放送文化研究所編
2004年6月刊 A5判 207頁
1890円

デジタル時代を迎えて、テレビ放送が果たす公共的な役割は何か、という問題について、さまざまな角度から述べたものである。児童・生徒は今でも余暇の最大の時間をテレビ視聴に費やしており、教師もテレビ放送の公共性の議論は避けて通れない問題であろう。斎藤氏が「メディアと公共性をめぐって」で主張する、放送メディアは「利益集約の政治」のためだけではなく、理由を吟味し合う時間の継続をもつ「熟議の政治」にも必要である、とのことは、考える教育を目指す教師には理論的な意味づけを与えてくれるであろう。阿部氏が「コミュニケーションとしての『放送の公共性』の意義」において、テレビ放送は教育基本法の改正のようなナショナルな公共性への動きに対し

て、自由・平等なコミュニケーションを生み出す「媒介」の装置であると述べていることは、今の教育状況で悩める教師に道標を示すものとなるであろう。原・米倉両氏の「現代のメディア空間とテレビの位置」での、テレビ視聴は分散化し、さらに複合化しているメディア環境の中で行われている、という調査結果を読むことで、自分の接する児童・生徒のテレビ視聴について新しい目で見ることの大切さを実感させられよう。松本氏は「市民によるメディアアクセスの可能性」でテレビの公共的な役割への実現に向けた児童生徒の試みについて紹介する。発信！マイスクール、イラク対話プロジェクト、真陽たんけん隊などの紹介は、教員なら無視することができない実践であろう。(和田正人)

門1-4-14 芝栄太楼ビル5F
TEL 03-6403-4675
FAX 03-6403-4658
<http://www.canvas.ws/wsc2005>

研究会情報

■「教育におけるメディア活用と著作権について」公開講演会開催

インターネットで提供される教育用コンテンツやeラーニングコースの開発が各方面で積極的に行われる昨今、危惧されることは著作権問題であることから、(独)メディア教育開発センターでは、標記講演会を開催する。

〈開催日時〉

平成17年1月28日(金)

14:00~16:00

〈会場〉

(独)メディア教育開発センター制作棟ホール

〈内容〉

講演:「教育におけるメディア

活用と著作権について」久保田裕氏((独)メディア教育開発センター特任教授・(社)コンピュータソフトウェア著作権協会事務局長)

質疑応答:会場から著作物を使用・利用の場面について質問を受け、講師と質疑応答を行う。

〈参加申し込み〉

平成17年1月21日(金)までに下記URLより申し込む。参加費無料。定員150名。

<http://www.nime.ac.jp/c2004/>

〈問い合わせ先〉

(独)メディア教育開発センター〒261-0014 千葉県美浜区若葉2-12

TEL 043-276-1111

FAX 043-298-3472

<http://www.nime.ac.jp/>

■「平成16年度第51回東京都小学校視聴覚教育研究大会」開催

東京都小学校視聴覚教育研究会では、「意欲を高め、確かな

学力を育成する視聴覚教育の創造」を大会主題とし、標記研究発表会を開催する。

〈開催日時〉

平成17年2月4日(金)

13:45~16:15

〈会場〉

東京都江戸川区立鹿骨小学校(東京都江戸川区鹿骨6-3-5)

〈内容〉

公開授業:1~6年の各学年で実施

全体会:研究発表、講演等

〈問い合わせ先〉

東京都葛飾区立水元小学校古川和彦校長

TEL 03-3607-0201

FAX 03-5699-1465

訃報

■岩浪伊一氏(元東京都教育委員会社会教育主事、元全国視聴覚教育連盟専門委員)が、11月22日ご逝去された。享年76歳。